

# 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

<p>1. 開 会 司会</p> <p>【市長挨拶】 文化課長 (代読)</p>	<h2>第1回 延岡市史編さん事業懇話会 議事録</h2> <p>日 時:令和2(2020)年9月14日(金) 13:00~15:45 場 所:延岡市役所 2階 講堂 出席委員:25名出席(別紙名簿のとおり) 欠席委員:なし 事 務 局:延岡市教育委員会 文化課</p> <p>13:00</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから第1回延岡市史編さん事業懇話会を開催いたします。本日の進行は、お手元にお配りしております会次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>なお、先週末に通過しました台風10号への対応のため、9月定例市議会の日程が変更され、本日も本会議が行われておりますので、市長及び教育長は、急きょ出席出来なくなりました。ご了承をお願いいたします。まずは、資料の確認をさせていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1.会次第</li><li>2.延岡市史編さん事業懇話会規則</li><li>3.延岡市史編さん基本計画(案) 6枚の資料</li></ol> <p>こちらを使って本日の会を進めさせていただきます。資料はお揃いでしょうか。</p> <p>それでは、会次第に沿って進めさせていただきます。次に市長あいさつとなっておりますが、先程、報告しましたとおり、本日は市議会本会議が開催されておりますので、市長の出席がございません。市長メッセージを預かっておりますので、文化課長が代読させていただきます。</p> <p>みなさん、こんにちは。文化課長でございます。私の方からメッセージを代読させていただきます。</p> <p>本日は皆様に直接あいさつ申し上げる予定でございましたが、先週の台風10号の関係で議会日程が変更になったため出席できず残念に思っております。椎葉村での大きな被害も報じられていますが、被害を受けられた皆様にお見舞いを申し上げます。</p> <p>皆様には、当懇話会の委員にご就任いただき誠にありがとうございます。私は以前、延岡市には事実上市制が施行されてからの市史しかないを知り、大変驚き且つ憤りを覚えました。適当な例えではないかも知れませんが、親や先祖に感謝してこそ我が身が幸せになると言われるように、歴史を大切にこそ、まちの将来が豊かなものになると考えてきたからであります。この長年の懸案の解決が、本日をスタートとして図られることに喜びと共に安堵もしているところであります。</p> <p>今回の市史編さん事業は、令和14年度の市制施行100周年での完成を目指しております。長期間に及ぶ事業であり、本市としては初めての取組です。また、市史編さん事業は、書籍を刊行することのみが目的ではなく、現存する歴史資料等の調査、収集を行い滅失や</p>
--	--

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>散逸を防ぎ、後世へ伝えることにも意義がございます。さらに、それらの資料研究等を通して我が国の中での本市の歴史的、文化的な位置を明確にするとともに、編さん過程において、市民の皆様の郷土への関心や愛着が深まることで、文化の向上と市政の発展につなげていきたいと考えております。</p> <p>今回、皆様にご意見を伺う「市史編さん基本計画」は編さんの基本方針や刊行計画を含めた編さんの根幹をなす計画であり、しっかりとした市史を作る上での土台となります。皆様には忌憚のないご意見やご提案をいただき、充実した内容の計画に仕上がることに大変期待をしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>最後になりましたが、委員の皆様の御健康と延岡市史編さん事業の成功を祈念いたしまして、簡単ではございますが、懇話会の開催にあたっての私の挨拶といたします。</p> <p>令和2年9月14日 延岡市長 読谷山 洋司 代読でございます。以上でございます。</p>
<p>【委嘱状交付】</p> <p>司会</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>つづきまして、委嘱状の交付を行います。本来であれば、澤野教育長が交付すべきところですが、教育長につきましても、議会本会議に出席しておりますので、文化課長が代わって交付させていただきます。文化課長が皆様の席を周って委嘱状を交付いたしますので、名前を呼ばれた方は、その場でお立ちください。なお、学識経験者、市民団体代表、公募委員の順で50音順にお呼びいたします。では、文化課長、よろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">（委嘱状交付）</p> <p>以上で委嘱状の交付を終わります。委員の皆様、よろしくお願いいたします。</p> <p>本来であれば、委員お一人お一人の紹介をさせていただきたいのですが、時間の都合もございますので、お手元に配付している懇話会委員名簿で紹介に代えさせていただきます。ご了承ください。</p> <p>つづきまして、「延岡市史編さん事業懇話会」の設置及び任期について、事務局から説明いたします</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、皆さんのお手元の資料の2枚目でございます。延岡市史編さん事業懇話会規則の中で、設置と任期についてご説明をさせていただきます。</p> <p>設置第1条でございます。この懇話会は延岡市史編さん事業に関し、延岡市史編さん基本計画の策定その他市史編さんに必要な事項について、広く意見を聞くために設置をしておりますのでございます。また任期、第3条でございますが、任期につきましては、委員の皆様の任期は委嘱の日、本日から第1条に規定する、延岡市史編さん基本計画の策定が完了するまで、となっておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
<p>【会長・副会長選出】</p> <p>司会</p>	<p>次に、会次第4の本懇話会の会長並びに副会長の選出になります。</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>お手元の資料の「懇話会規則」をご覧ください。この規則の第4条第1項の規定に拠りまして、会長及び副会長2名は、委員の互選により決定することとなっております。どなたか推薦等ございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「事務局に一任」との声あり）</p> <p>事務局に一任との御意見がありました。特に推薦等がないようですので、事務局案を提案させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」との声あり）</p> <p>それでは、会長は 学識委員の有馬 学委員に、副会長の2名は学識委員の 柴田博子委員と、市民代表の 吉田敏春委員にお願いしたいと思います。如何でしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」との声あり）</p> <p>ご異議がございませんので、会長は 有馬 学 委員に、副会長は 柴田博子 委員、吉田敏春 委員にお願いいたします。</p> <p>次に、懇話会規則第4条第3項の規定によりまして、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたとき、これは主に天候などの影響で、会長が会議に出席できない場合などを想定しているものですが、その時は、お2人いる副会長のうち、あらかじめ会長が指名する副会長が会長の代理をすることとなっておりますので、有馬会長は会長の職務代理者のご指名をお願いいたします。</p>
【会長挨拶】	<p>会長</p> <p>それでは、会長をやれという事でございますので、地元にお詳しい方も大勢いらっしゃると思いますけれども、ご指名でございますので務めさせていただきたいと思っております。</p> <p>私、個人的には日本近代史を研究している者です。その中でも、近代日本の地域社会がどういふものであるかは、主な研究テーマの一つでありますので、様々な自治体史の編さんにこれまで当たらせていただきました。宮崎県について申し上げますと、随分前のことですが、宮崎県史の編集に携わったことがございますし、都城市史、日向市史にもお手伝いさせていただきました。</p> <p>延岡市につきましては、只今計画が進行中でありまして、内藤記念館のリニューアル計画の委員会の委員を務めさせていただいております。今回、延岡市史編さん事業が始まるという事で、事前に少しお話を伺ったんですけれども、実は本日もそうですけれども、こうやって拝見しまして、公募委員の皆様が非常に大勢参加していらっしゃる。様々な形で市史編さん事業がスタート前に市民の皆さんの意見を広く伺いながら進めていくというやり方は、勿論結構な事ですし、これほど念を入れてやっているところは、恐らく他にはないんじゃないのかなと思います。</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

自治体史編さんというのは、各県区市町村で継続的になされて参りました。戦前の郡史、町村史は立派なものもございますけれども、やはり本格的な史料調査に基づいた郡史、町村史というのはなかなかないですね。ですから近年の自治体史にはいろいろ意義があると思うんですけども、私はその一つの非常に大きな意義は、日本全国について、自治体によってやり方の深さ、密度というのは少しずつ違うと思うんですけども、しかし、それでも日本全国に渡って資料調査をずっと続けてきたのと同じようなことを、個々の自治体がそれぞれにやりながら、それを全部集積すると、日本全土の資料調査であると。政府に日本全土の資料調査やってくださいと言ってもやってくれるわけがないわけで、そういう意味で、後世、日本の歴史を考える上で、自治体史編さんの成果の集積は、大変大きな意味を持ってくるんだろうと思います。そういうふうに考えますと、延岡市史はもちろん、市民の皆さんがご自身が住まわれている地域の歴史について深く知り、それをその地域に住んでいる人間として、源氏の世の中、将来に役立てていくということが大事なことでございますけれども、同時にこの事業は、日本の歴史に責任を持っているということを念頭に置きながら、私どもは進めていくべきだと思います。

そのためにどうすればいいのか、ぜひ皆様から忌憚のないご意見を伺って、市史の本編に活かしていくことになればよろしいかなと思いますので。しかも、4回くらい予定されているんですか。懇話会を4回もやる自治体って多分ないと思いますね。それだけ丁寧に市民の皆様のお声を拾っていく機会が設けられているわけですので、ぜひこれを十分に活かして豊かな市史編さんに繋げるよう、どうぞご協力よろしく願いいたします。

司会 有馬会長、ありがとうございます。有馬会長、副会長の2名の中から会長の職務代理者のご指名していただきたいと思いますが。

会長 それでは、実は私、職場が福岡市なものですから、行ったり来たりしながら、こちらの会議に参加することになると思いますので、万が一飛行機が欠航とか、そういうこともありますので、その場合には副会長の柴田先生にお願いしたいというふうに思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

司会 ありがとうございます。有馬会長より柴田副会長を職務代理者にと指名がりましたが、これにご異議はございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

それでは会長・副会長が決まりました。ありがとうございます。

本日の会議では、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと存じますので、恐れ入りますが、報道機関の皆様は、ここでご退室をお願いいたします。

(報道機関は退室)

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

司会	<p>ここからは、議事に入ってまいりますが、本懇話会規則第5条により、会長が議長となることとなっておりますので、議事の進行につきましては、有馬会長にお願いしたいと思います。</p> <p>なお、先程、報道機関にお願いしましたとおり、本日は、皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと考えております。そのため、本日の議事録につきましても延岡市情報公開条例上の開示しない情報として取り扱いますので、皆様、積極的なご発言をお願いいたします。また、このような取り扱いとしますので、会議中の発言等につきましては、委員の皆様もSNS等での発信を行わないようお願いいたします。今回の基本計画につきましては、皆様からのご意見を踏まえまして、ある程度まとまった段階で、パブリックコメントを行うなど、市民の皆様にも公表していく予定でございます。</p> <p>なお、本日は、発言する際は、必ずマイクを使用させていただきますので、挙手をお願いしたいと思います。マイクは係りの者が自席までお持ちいたします。なお、感染症対策のため、マイクの消毒を行いますのでご理解ください。</p> <p>それでは、有馬会長、よろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">（会長が議長席に移動）</p>
2.議事	
議長	それでは、改めて議事に入ります。お手元の資料に沿って進めて参ります。
委員	冒頭確認した方がいいと思うんで、議事の中身に入る前に確認させてください。今事務局の方から、本会議の議事録は作成しないんだと。その理由は忌憚のない意見を皆さんから出してもらうためということなんですけど、発言者の名前を伏せた状態で、議事録、要するに会議でどういうふうな議論が行われたのかというのは、後世、市民に知っていただくことが必要じゃないかと私は思うんですけど、まずそのあたりのところから議論を始めていただけないでしょうか。
議長	はい。事務局お願いします。
事務局	<p>今、おっしゃっていただきましたように、本日はたくさんの公募委員の方を含めて参加をいただいております。報道機関の方にもご退出いただきましたのは、皆さま方から忌憚のない意見を賜りたいということでございます。</p> <p>議事録を作成しないということではなくて、議事録は作成いたします。この会議の、最終的には公表する段階に来ましたら、そういうこともあるかと思いますが、あらかじめ議事録が公表されるということがありますと、なかなかご意見がいただけないんじゃないかな、ということで、情報公開条例の第5条の中で、「実施機関の内部における審議・検討または協議に関する情報であって、公にすることにより率直な意見の交換が損なう恐れがあるもの」。そういうものに該当するのではないかと、今のところはそのように取り扱いをさせていただくと、将来的には決まったことは公表させていただきますので、その段階になりましたら、その意見というのはそのように取り扱いが出来るかもしれませんが、そういったこと</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>は、またその段階になりましたら検討させていただきます。</p>
委員	<p>事務局がおっしゃっている公開という中身は、議論の結果、要約だけではなくて、どういうことが話題になったのか、それは、どういうやり取りがあったのか、ということがすごく重要だと思っていて、今、条例か法律か知りませんが、それに基づいておっしゃっていましたが、この委員の方は、どう思っているのか、そのあたりも聞いてもらったらいいんじゃないでしょうか。匿名を前提として、議論の中身を全て網羅的に残すとしたほうが、いいのか、悪いのか、そのあたりから議論したらどうかと私は提案しているんですけど。</p>
議長	<p>はい。どうぞ。</p>
事務局	<p>情報公開条例上は、先ほど委嘱をさせていただきましたけれども、皆さま方、非常勤の特別職という立場になりまして、職員の場合には職務上の行為につきましては、全て公開になります。名前も含めて条例上公開ということになっております。ですから、先ほど〇〇委員に言っていました、「名前を伏せて」というのは、事務局の立場ですと、今請求された段階ではそういう取扱いが条例上出来ないということで、今回については議事録としては残します。今回どういうやり取りがあったというのは残すということでございます。今の段階で条例上、情報公開請求があった場合に名前を伏せてという取扱いは出来ませんので、今のところは出来上がるまでは、忌憚のない意見を言っていたきたい、市民の意見を取り上げたいということで考えておりますので、今の段階ではそういう扱いにさせていただけないかというご提案でございます。</p>
委員	<p>公開する中身については、事前に委員の方に周知して確認は求めるんですか。</p>
議長	<p>はい。どうぞ。</p>
事務局	<p>議事録についてでございますので、議事録について情報公開があった場合については、市が持っている文書ということになりますので、条例上の取扱いに基づいて取り扱うということになるかと思えます。ですから、この議事録につきまして、今の段階では皆様に確認するという事は、今の段階では考えておりません。ですから、取扱いについては、本市が定めております条例に基づいた取り扱いをしたいということになります。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。いいです。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。 あ、どうぞ今のようなご意見ございましたら、活発に発言していただきたいと思えます。次に進んでよろしいでしょうか？</p>
	<p>(異議なしの声あり)</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

<p>(1) 市史編さん事業概要について</p> <p>(2) 市史編さん事業懇話会スケジュールについて</p>	<p>議長            それでは議事の(1)市史編さん事業概要について、議事の(2)市史編さん事業懇話会スケジュールについて2点をまとめて事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局            資料につきましては、事前にお配りしております「延岡市史編さん事業概要等について」という資料でございます。座って説明させていただきます。</p> <p>                         市史編さん事業概要ということで、3つ挙げてございます。1つ目が市史編さん事業目的でございます。目的として3つございます。</p> <p>                         1つ目、豊かな歴史と文化を有する本市に現存する歴史資料や文化財が時間の経過とともに、逸失や散逸することが危惧されておりまして、市史編さん事業を通して、これを収集、保存し、後世に継承することが1つの目的でございます。</p> <p>                         2つ目でございます。市の歴史の変遷を歴史資料に基づき体系的にまとめ、我が国における延岡市の歴史的、文化的な位置を明確にするというのが2つ目でございます。</p> <p>                         3つ目、市史編さん事業を通じて市民の郷土への関心と愛着を深め、地域の連帯感やふるさと意識を高揚し文化の向上と市政の発展に資する、というのが3つ目の目的でございます。</p> <p>                         続きまして、市史編さん事務の流れでございます。まず、自治体史、市町村史等の編さん事務の流れは、資料の3枚目のフローチャートに示した図が一般的でございます。3ページの図について説明をさせていただきます。よろしいでしょうか。事業概要の3ページでございます。</p> <p>                         図の一番左の市史編さん基本計画でございます。市史の編さん方針や刊行計画等を定めたもので全編さん事業の全ての基礎となるものです。本年度は、この市史編さん事業の基本計画を策定致します。基本計画につきましては、本懇話会の委員の皆様のご意見等を伺いながら、本年度内にまとめ上げていく予定となっております。そして、次の進行計画以降が令和3年度以降の取組になってまいります。これらは、基本計画に基づき、編集に携わる学識者による編集委員会と市を中心にして進めていくことになります。</p> <p>                         それから2番目の進行計画でございますが、市史編さん基本計画に基づき実際の編さん作業を進めていく上で必要となるもので、この中で、部会ごとの調査範囲、時代区分を明確にするための基礎内容の作成、歴史資料の収集計画の作成でありますとか、刊行物の目次構成等について定めて参ります。</p> <p>                         次に予備調査でございますが、これは編さんに必要な歴史資料等に関しまして、どのような資料が存在するのか、また、その資料がどこに所在しているのか等について、調査を行うものでございます。</p> <p>                         次に歴史資料調査でございますが、予備調査に基づきまして実際の歴史資料の調査行ったり民俗関係でしたら、現地での聞き取などフィールド調査も行ってまいります。</p>
--	---

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

次に歴史資料整理でございます。収集した様々な歴史資料について、今後、利活用するために整理が必要になってまいります。

これ以降は、市史の刊行にいたる図の上の段の流れと、調査等で集めた歴史資料の保存・活用にいたる下の段の流れが2つございます。まず上の段の流れでございますが、刊行する本の内容構成、収集した歴史資料のうちから刊行物に掲載されていく掲載資料の選択。それから、原稿の執筆。次に編集、校正作業を経て市史の刊行となります。

次に下の段の流れでございます。集めた歴史資料については、整理したうえで、保存・活用のために目録を作成いたします。また、市史・刊行物に掲載するために、あるいは、後の保存・活用のために必要な複写・写真撮影を行います。この後は、歴史資料として保存・活用していくことになってまいります。また、複写・写真撮影のあと、編集を経て、刊行物に掲載する資料も出てまいります。市史編さんといいますと、まず、市史としての書物の刊行をイメージされる方も多いと思いますが、本資料の市史編さんの事業の目的でもご説明させていただきましたように、貴重な歴史資料を保存し、後世に継承していくことが、市史編さん事業の大きな目的になります。その意味では、今ご説明いたしました歴史資料の保存・活用のための一連の事務の流れも、非常に大事な市史編さんの取組であると考えております。

資料 1 枚目に戻っていただけますでしょうか。市史編さん事務の流れの2つ目の流れでございます。新たに編さんいたします延岡市史は古代から現代までの本市の歴史を体系的にまとめるもので、基本的に通史編、及びその基礎となる歴史資料等をまとめた史料編で構成する考えてございます。一般的には自治体史の編さんにあたりましては、現存する文化財や発掘等調査結果、古文書など地域の歴史に関する様々な史料を調査・研究の上、まず、史料編を編さんし、それを踏まえて通史編を編さんすることになります。

3つ目の事業スケジュールでございます。具体的なスケジュールにつきましては、後程、基本計画の中でご説明させていただきますけれども、ざっくりと説明させていただきますと、本年、令和2年度は、基本計画を策定することになります。令和3年度以降、資料調査、執筆作業、刊行という事で随時出てまいりまして、最終的には令和14年に延岡市制100周年を迎えますので、そこで、完成をしていくということで、考えているところでございます。

続きまして、2ページでございます。この市史編さん事業懇話会のスケジュール等をご説明いたします。上の図の中で、9月、本日が第1回懇話会でございます。各懇話会での主な議事内容につきましては、中段に書いてございますが、まず、本日第1回目は事業概要とスケジュールの説明させていただきまして、後程、市史編さんの基本計画の案について、ご意見を賜りたいと考えております。第2回目につきましては、11月の上旬を考えております。後程スケジュールについて確認をさせていただきますが、第2回目につきましては本日いただきました基本計画の意見等、さらに概算の事業費等を交えまして市民の皆様へ、パブリックコメントをもらいますけれども、パブリックコメントの案というものを提示させていただきます。また、第3回目は1月の中旬から下旬を考えておりますけれども市民の皆様からいただきましたパブリックコメントを踏まえた市史編さん基本計画等について修正したものを再度ご提示させていただきたいと考えております。第4回目につきましては、3回目いただいた意見等を踏まえて最終的に基本計画の最終案を取りまとめていくというふうな流れで考えているところでございます。

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>その下の市史編さんの組織につきましては、後程、基本計画の中で詳しく説明をさせていただきます。説明は以上でございます。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。ただ今、議題の1と2について事務局からご説明をいただきましたが、これにつきまして何かご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>ちょっと気になったのは、懇話会が4回になっております。果たして延岡市史編さん基本計画を4回で作るわけですが、その内容を検討した場合に4回で完全に話し合いの、懇談の内容は收拾する予定で進めるのか、それとも、もう少し時間がかかるのか。少し心配なものですから。もし足りなければ増やす予定はあるんですか。</p>
議長	<p>事務局お願いします。</p>
事務局	<p>今年度中に基本計画を策定するという事で、本日、4回ということをご提案させていただいております。しかしながら、委員の皆様から、本日もそうですけれども、たくさんご意見いただきました。状況によりましては、もう1回程度どちらかに入れていただかないと考える必要はない場合もあるのかな、というふうに思っております。</p> <p>ただ、スケジュール等、先生方の日程調整等のありますので、出来ましたらこの4回で終了出来たらということ、本日はご提案をさせていただいております。以上でございます。</p>
議長	<p>基本計画ですので、中身ではなく、どういうやり方をしましょうか、ということについて決めて頂くということだろうと思っておりますので、何とか4回でまとめたいと思っております。というか、普通、一般の自治体史はこういうことはやらないんですよ。市がやるよって言って、委員を決めたよって言って、事業始まりましたって言って、動き出しちゃうんですね。だから基本計画に4回かけて皆さんのご意見をお伺いするのは私の経験からいうと、非常に丁寧なやり方だなと。丁寧すぎるくらい丁寧なやり方だなと思っておりますので、ぜひその間に基本方針の議論ですので、活発にご意見をいただければと思います。</p> <p>他に何かございますか。はい、どうぞ。</p>
委員	<p>後でいろいろ出て来るとは思いますが、巻の構成とか、どの巻のどういう資料にするのかとか、巻数の問題、内容の問題、そういったことからすると懇話会と懇話会の間に作業部会というのを設置して、そこで、ある程度練って出たものを懇話会にあげるというふうにしたほうが効率的でもあるし、回数も4回か5回、少ない中でなんとかクリア出来るのかなというふうに思っておりますので、ぜひとも作業部会を設置していただけないかと思っております。人数的には5~6名程度かなと思っております。以上です。</p>
議長	<p>事務局いかがでしょうか。</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

事務局	<p>市史編さん事業を本年度から取組みますけれども、昨年度職員を1名配置して、いろんな自治体に調査致しまして、自治体における市史の作成について研究してまいりました。また、本年度当初、基本計画につきましてはコンサルタントを選ばせていただいて、いろんな自治体史に携わったコンサルタントを踏まえてこの「基本計画(案)」を作成いたしております。ですからこの基本計画(案)、後程、懇話会に関するところを説明させていただきますが、それにつきましては、いろんな自治体の状況を踏まえながら、案として提出をさせていただいているところでございます。ですから、これにつきまして作業部会というお話がありましたけれども、例えば今お考えのところが他の自治体のところを参考に研究するといった意味でしたら、既にそういったことを盛り込んだ上での基本計画として、今回提案をさせていただいております。</p> <p>事務局といたしましては、「願う会」のご意見にもありましたように、令和14年度、100周年に完成させなければいけないと考えております。そのためには、本年度も含めて13年であり、決して余裕があるものではないと考えております。出来る限り、こういう場で意見をいただいて、皆さま方には事前に資料もお配りするように致しておりますので、この場でご意見をいただいて進めていきたいと考えております。以上でございます。</p>
議長	はい。どうぞ。
委員	<p>後で出てきますけどね、民俗とかいうものと神話伝承とか一緒になってたかと思うんですが、それはそれでよろしいかと思いますが、やはり巻の構成というのは結構重要なものだと思いますので、どのようにクリアするか。これはやはり市民の声というのを反映させたほうがいいのかなと思いますので、きめ細かくその辺のところをやるためには、作業部会で、ある程度地元熟知している者が、ある程度詰めた感じでやったほうが、今のところ民俗部会や民俗編あたりが非常に薄い。あと自然も巻の構成としては無いと感じますので、そこら辺のところは事前にある程度煮詰めていた方が、明らかに大枠を決める大事な会議ですので基本計画は、その辺のところを大事かなと思います。ですので、出来れば作業部会あたりである程度煮詰めると、懇話会と懇話会の回数がある程度コンパクトになされるのかなと思います。以上です。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございます。今、民俗、あるいは自然が薄いんじゃないかと。後程、基本計画のところでご説明があると思うんですけども、その中で、そういうご意見をだしていただきながら、最終的には編集委員会が出来て、そのもとで専門部会が出来て、そこでの議論を踏まえながら、内容というのは進んでいくのかなと。大きな方向性としては、只今の意見は承りました。他に、よろしいでしょうか。はい。どうぞ。</p>
委員	<p>すごく基本的なことをお聞きしますが、有馬先生が先ほど市の自治体の市史編さんにおいて、懇話会を4回もやる場所はないと、ご存じないとおっしゃってましたけれど、今回の延岡市史編さんの基本的な考え方において、市の官製版ではなく、市民主体となった市史を作っていくんだと。延岡で初めて市民主体となる市史編さんをやっていこうじゃないか</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

議長	<p>とか、そういう心積もり、気持ち、その辺のところを明確にしないと今まで世の中にある、どっかのコンサルが「全国でこういうふうにやってるから、同じように官製版をやればいい」というんじゃない、延岡市の市史編さんでは、全国にない、市民主体で丁寧に懇話会を納得のいくように議論した上で作っていくというところが、基本計画の考え方の認識をコンセンサスとして明確にする必要があるのではないかと思いますけど、いかがでしょうか。</p> <p>私からお答えします。私ただ懇話会の会長をしると言われただけなので、どこまで踏み込んだ話をしているのかわかりませんが、非常に大事なご指摘だと思います。</p> <p>基本的には自治体史というのは、後世に残るような、10年、20年、30年、50年残るような、後世の人たちが使える資料ですね。見方というのは時間が経つと変わってきちゃうんですよ。だけど、その見方を歴史として記述していく基礎となる史料は、これはやっぱり一番基本的なものですから、ここのところをきちんと学術的な目を通して、後世に使えるようなものを、ちゃんと出していくと。これはやはり挨拶で述べたように、日本の歴史に対する延岡の責任でもある。「延岡はここでやるから、この資料については任せなさい」と言えるようなものをきちんと作っていくことがまず第1だと思うんですね。ですから大抵の自治体史は、きちんとした史料調査を行った自治体史はやっぱり資料編の巻数が圧倒的に多いですね。これは当然のことだろうと思います。</p> <p>それで問題はその先で、従来は資料編があって、通史編があって、数冊ですね、それで終わりという構造だったんですね。正直に申し上げますと我々研究者はこれまで通史編を重視していなかったと思います。これは申し上げましたように時間が経つと見方が変わってきちゃうので。あんまり生命を持たないんですね。なので、「とにかく史料編をちゃんと出すように。通史編はその次だ。」という考え方の人が多かったのではないかと思います。このような考え方はもう通用しないと思います。市民の税金を使って行政が出すものですから、その中身というのは、きちんと市民に届かないといけないんですね。ですから、そういう意味で言えば、非常に抽象的な言い方で申し訳ないんですけども、その時代のきちんとした学術的な成果をなるべくめらかに、大昔の史料集ってわかんないですよ、私だって時代が違ったらわからないんです。そもそもわかる前に読めないかもしれない。ですから、それをなるべくめらかに市民に繋げていくものがどうしても必要なんだろうなと思います。その役割を通史編には求められてくるんだろうと。</p> <p>通史編には、もう1つ役割があって。何かについて、延岡の歴史について何か調べようとした時に、とにかくそれを開くと、何か手掛かりがあると。大体の事については、恐らく必ず出て来るであろうと、記述があるであろうと、例え一行であろうとね。そういう「延岡歴史事典」的なものがどこかに一つ「どん」とあって欲しいという要望があるわけですね。歴史に関心がある市民の多くの皆様にはあると思うんですね。そういうものがやっぱり要る、という要素も考えるべきではないかということですね。大体自治体史って、「厚くて重くてつまらない」と多くの方の見方だろうと思うんですね。だから必ずそこに何か書かれているだろうということですね、しょうがないところはあるんですよ、厚くて重くてなんか。だけどそれよりもう少し滑らかに学術的な成果が市民に伝わるという面がこれから必要になってくるんだろうなというふうに思うんですね。</p>
----	---

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>今、委員がおっしゃった市民参加でってことなんですけれど、これは、いろんな所でいろんな人が最近考えるようになっていきます。精神としては賛成なんですけど、実際にそれを原稿を書いて活字にした本にするというのはすごく大変なことなんです。部分的な試みをいろいろやっているんですけど、実に大変です。恐らく事務局が死にます、それは。今やろうとしたらですね。ですから直接中身を書くという事よりも、自治体史編さんは周辺にいろんな波及効果があって、いろんな付随する事業を伴っていかなくちゃいけないと思うんです。それは、若い世代やお子さんへの教育もそうだし市民に対する教育もそうだし、場合によっては観光へと結びついていくことなどが必要なんです。それは全ての役割を本としての自治体史に全部盛り込むことはなかなか難しいだろうと。そこをどうやってフォローしていくか、仕掛を作っていくかということを考えなくてはならないんじゃないか。そこから市民参加を考えていったらどうなんだろうかというのが私の個人的な意見です。</p>
<p>委員</p>	<p>私が言ったのは市民参加ではなく市民主体と申し上げたんですが。先生がおっしゃった市史の内容の専門性については、当然素人の市民が執筆するよりも、当然それは、専門家、それも最先端の専門家、学術経験者に書いてもらいたいと思っておりますし、その市史の専門性の中身と懇話会の進め方、例えば懇話会の回数などは、議長も丁寧に進めるとおっしゃってますけども、事務局が最初に提案したスケジュールにこだわることなく十分な議論ができるようにということで、私は市民主体と申し上げただけです。</p>
<p>議長</p>	<p>はい。ありがとうございます。 それは事務局が今どういう構想をもっておられるか、わからないですけども、今回のこの懇話会は基本計画を作るための会でありますから。基本計画は今年度内に作らないと実際の作業が動き出せないんで、そうしたいと思っております。それに限らずなんらかの形で、常に皆さんのご意見を反映していくような、あるいは、今、市民主体とおっしゃったんですけども市民の皆さんが主体として活躍できる仕掛けを作るのは結構なことだと思うんですが、この懇話会でそれをやるというのは、私は全体4回くらいで基本計画を作るということに、この懇話会の役割は市がおっしゃるよう規定していくほうが、あとあと進みがよろしいんじゃないかと思っておりますけど、今おっしゃったような主旨の仕掛けが必要なんじゃないかとは私も思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>県史、西都市史を読んで、私、実は日向神話の研究会を発足しまして高千穂、日向までのメンバーで日向神話を研究しております。そうしてみたときに地元で伝わっている言葉とか話と、霧島・鹿児島説とのものすごく差が大きいんですよ。どうしてなんだろうかと調べてみました。そこの中にある調査とか何かちょっと違うところがある、違和感を覚えている。高千穂・延岡・日向は特異的な神話の世界があり、さらに延岡は親藩として特殊な位置で殿様が何回も下りて来られている特殊な事情があって、それによって方言・言葉も相当違っている。こういうものを「今までの既定したもので作られたらたまらん」という延岡市民の声が先であって、そういうものを汲み上げてくれる方法を理想としているものだから、この話が出たのであろうし、私も、そういうふうなものを汲み上げてくれる自治体史が出来れば</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>有難いかなと。</p> <p>方言なんかにしても、やはり地元の協力員をどういうふうにして集めるのか、地元の人たちが資料調査でどういう風に参加が出来るのか、そういうことが知りたいんじゃないかなと思います。そういうことを組み合せて、これがダメだとかじゃなくて、延岡市民は非常にボランティアの参加意識が高いところです。私どもが記紀 1300 年の事業をしたときも、400 人の聴講者がいて会場に入らなかったんです。それから野口記念館を壊す前に、最後のイベントをしたんですが、その時も 700 人しか入れないのが 1500 人来ちゃって、300 人位はお帰り願ったということがあったくらい非常に歴史とかに興味があって、協力をいっぱいしてくれる所です。ですから、どうぞその力を使って今度の市史編さんにお役立ていただきたいとの願いがあるということだけのご理解していただけたらと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>その辺は重々承知しております。以前に内藤記念館のリニューアル事業に関わらせてもらった時でもですね、パブリックコメントに非常に多くの方が、大変、積極的な前向きな意見を出していらっしゃったことが非常に印象的であったと記憶しています。そういう意味で、ある種の地域の歴史、文化に対する皆さんの熱い想いは、しばしば感じるところです。そういった中で自治体史を編さんするというのは、逆に専門家側から見ても1つのチャレンジだと思います。黙って何も言わずにやらせてくれるというのも楽でいいんですけども、「それ、おかしいじゃないか」と皆さんから声上がるような、そういうプレッシャーを感じながら自治体史を編さんする。これはやっぱり歴史研究者として1つのチャレンジじゃないかなと思っておりますので、これからもご意見をお寄せいただければと思います。ありがとうございました。他に。はい、どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>今、〇〇委員と有馬会長からお話があったように、多方向の視点で、歴史を、ぜひ学者の方には見ていただきたいなと思っています。実際延岡市という自治体が、歴史的、文化的にみても特殊な地域というのが、私も少し歴史を勉強していた経験があるので重々承知している部分ではあります。また、江戸時代の時には大名がこちらの方に来たりということがあり、そこで文化の変遷とか、元々土地にあった文化と、殿様が持ってきた文化が入り混じって新たな文化が生まれたりということの経緯があるかもしれないので、そちらの方の研究もぜひしていただければなと思っています。</p> <p>あと私がちょっと気になったのが、市史編さんの事業概要 1 番③のところですか。「市史編さん事業を通して、市民の郷土への関心と愛着を深め、地域間の連帯感や故郷意識を高揚し、文化の向上と市政の発展に資する。」ということなんですけれども、私自身が、若輩者なので勉強不足なものもあるんですが、どうしても歴史書とか自治体史というのは、漢字とか難しい表記とかを使って、実際に若い世代、20 代とか今後出て来る 10 代の世代の人たちが、見る時に分かりづらかったりとか、学校の授業とかで習っていなかったりするかもしれないんですよね。なので、もし出来ることであれば、まとめた資料を基に、九州国立博物館がしているようなデジタル的なまとめ方や若い世代に向けた情報提供の仕方も考えて欲しいと思います。今までと同じように難しい文言で書かれた市史については、興味がある人には見てもらいつつも、歴史に興味がなかった方、歴史って何だろうという方々のた</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

<p>議長</p>	<p>めに知っていただくために今回 100 周年という事で、延岡市の歴史をまとめるにあたって、そういった方法でも考えていただければなと思います。どうでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。私あんまり経験したことないんですけど、こういうふうにお若い方の意見を伺ったことがなくて。大体こういう場においでいただけないんですけどね、お若い方が。だけどこれは、あんまり健全なことではないんです。そういう皆さんのご意見をぜひ伺いたいと思います。</p> <p>実はやっぱり、伝え方っていうのが、相当いろんなことを考えなきゃいけない段階に来ているなど。特に、ネットメディアのコミュニケーションの時代ですので、そういうものを通して、どういうふうに伝えていくかというのは、まだまだ、本格的に方法を考えられていない。「本にして出すとお金かかるから、Web公開でいいや」みたいな、その程度のことしか多分やってないんですね。ですからそれは大変大事なご指摘として、一生懸命考えていきたいし、また、こうしたらどうですかっていうご意見を、ぜひいただきたいなと思っております。</p> <p>はい。どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>今のはですね、付帯事業の中の5ページの2の「市史編さん事業の成果を活用し」というところで、延岡市史概要の刊行、写真や図表、そういうのに当てはまるんじゃないかなというふうに解釈したんですけど。</p>
<p>議長</p>	<p>はい。そうなんです。これ多分、仮に置いてあるんだと思うんですけど、市史概要って、いかにも読む気がしない言い方で。概要って書いてある本が出て、誰が手に取るんだろうと思うんですけども、その辺のことも含めてですね。本当に大事なことなんです。小手先の話ではない。中身と結びついて、どういうふうにしたらいいんだろうかと。それがまた、概要の書きっぷりにも逆に影響を与えていくと思います。重要なテーマとして考えていきたいし、それこそ市民の皆さん方が主体となって、ご意見をいただければなというふうに思うところです。はい、どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>今の〇〇委員と、その前の〇〇委員合わせてなんですけど、〇〇委員からの概要については、副読本みたいな形で、わかりやすい、しっかり手に取りやすい製本をすればいいのかなと。それは、本編の要約のような位置付けになるのかなと思いますので、著作権の二次加工になりますので、そのあたりは、当初契約をする上で副読本の作成も含めて、著作者との契約を注意した方がいいと思います。</p> <p>それから、〇〇委員からの、若い人向けということで、これ非常に重要なことだと思っております。要するに、市史の読者、ユーザーは誰なのかと。誰を対象に、我々は市史編さんを作っているのか。専門家、学会の専門家だけではなくて、しかも延岡の歴史、郷土愛読者、歴史者だけじゃない。そこに税金を使うというのは非常に勿体ない。意味無いていうのは私個人的に思ってます、歴史に興味のない一般市民に対しても含めてですね、広く読めるような市史編さんを作るべきではないかなと私は思ってます。問題なのはそれと、最初から会長がおっしゃるような専門性、学術性を維持しつつ、読みやすい、若い人にも親しみや</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

<p>議長</p>	<p>すい市史編さんというのは、どうあるべきなのかというのは私は一番の議論になってくるのかなと。</p> <p>はい。そうですね。それは、いろんなところでいろんな人が議論をして、特に、こういうふう に歴史離れが進んでいく中で、税金を投入して自治体史を作る時代になると、その議論 というのはだんだん必要になってくるじゃないのかな。いろんなところで、いろんな人が議論 をしていますが、まだうまくいった例を見たことがない。これから本気で考えていかなきゃいけ ないことかなと思います。</p> <p>副読本に関してはですね、今指導要領が変わって、小学校で郷土教育というのが入っ てきてます。実は福岡市史で、ブックレットで小学校社会科編というのを、今作ろうとしてい ます。出来ましたらぜひご覧いただいてご意見をいただこうかと思うんですけども。これも 生徒さんが読むというよりは、生徒さんに教える先生に読んでいただくというようなものにな るんですね。現状では、それが一番現実的かなと。ですから、実際に学校の現場の先生 方のご意見も聞いていかなきゃいけないと思っております。</p> <p>はい。じゃ、まだ伺ってない人から、よろしいですか。</p>
<p>委員</p>	<p>延岡市の100周年の市史編さんということで、非常に大事なことだと思うんですけど。こ れは作ることが目的じゃなくて、作ったやつを今後どういう形で活用するかということが大 事だと思いますし、その上で、〇〇さんが言われたように、基本的に、100周年の中で残す ものと、それから、やっぱり、この市史編さんでですね、市民の郷土愛これを高めていくと。 それで延岡市の場合も、近隣の合併で、北浦、北方、北川と合併しまして始めての市史編 さんになりますんで、我々延岡市民は他の市町村を知らないし、向こうの方もあまり延岡の 事を知らない、ということはあるので、北浦、北方、北川の人も入れてですね、こういう 機会です、初めて作るわけですから議論していただいて、この作った資料を、一般市民の方 は、やはり延岡はこういうところがあると、しかも文化歴史についても、いまも古墳のお話 がありましたけども、非常に古くからの橋と、それから近世のお城の町もあると。川と海におい ても、海山川と、皆さん 11万8000人の市民の方に知ってもらうことは非常に重要だとい うふうに思います。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。もうひとつ方、はい。</p>
<p>委員</p>	<p>今いろいろ議論がなされていますが、市史編さんの基本計画の内容協議に入っている と思うんですね。この会は、この基本計画を策定することが目的で、一応、ここに出ている 案に従って、恐らく事務局が提案しているわけですから、それに従って議論したほうが整理 がしやすいんじゃないかなというふうに思いますので、この自治体の市史編さんにおける基 本的な姿勢というのは十分お聞きしたと思いますので、ぜひ、案の方の提案をしていただ ければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。議事進行について貴重なご意見をいただきまして。私が皆さん</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>のご意見にのせられてベラベラ喋っているものですから、だいぶ時間をとらせてしまいました。また、基本計画案について説明を受けておりませんので、少し先に進ませていただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>手が挙がっていたので、もう少し意見を伺って、それから基本計画の中身について進むという事で。まだいらっしゃいますか。はい。どうぞ。</p>
委員	<p>基本計画案に関する事なので後程、発言したいと思います。</p>
議長	<p>はい。どうぞ。</p>
委員	<p>皆さんありがとうございました。今皆さんの話を聞いた中で、こういったものをまとめるにあたって、たぶん、20年、30年たった時に、見る人たちが誰かというターゲット層もそうですし、あと、僕が書店に行ったときに、延岡の、漫画の歴史の本を作っているのを目にしたことがあって。実際そういうものが1冊あると、子どもたちって、漫画で作ってあったりするから手に取りやすかったりするし、お父さんお母さんたちも、その子がその本を欲しいと言った時に、ある程度は知っておかないといけない部分も出てくると思うので、何か家族間で会話が歴史で繋がったりすると思いますし、延岡の歴史であったりとか、地域の歴史であったり、もしかしたら学校教育等でも入ってくると思うので、何かそういう1冊を別に作ると計画の中にも入っていましたが、そういうものになっていただけたらなあと思って。そしてそれを見た子供たちが、地域の研究とか歴史の郷土の発展というかそういうものを、何かしら、またこういう郷土史とかをまとめる際に、またもしかしたら、僕とか、皆さんの代わりにそういった歴史に興味を持った子たちが、「私も加わりたい」というような土壌ができればいいかなと思ってます。僕の意見は以上です。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。</p>
【休憩】	<p>それでは、基本計画案に入る前に10分ここで休憩とします。(14:17)</p> <p>あちらの時計で25分から再開とします。</p>
(3) 延岡市史編さん 基本計画(案)	
議長	<p>時間になりましたので議事を再開いたします(14:25)。</p> <p>議題の(3)延岡市史編さん基本計画(案)について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>この基本計画につきましては先ほど申し上げました通り、いろんな自治体さんの基本計画等を参考にさせていただきながら、さらに昨年度行いましたパブリックコメント等についても参考にさせていただいて、反映をしているつもりでございます。</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

説明させていただきます。

基本計画の1ページの趣旨、そして、2ページの目的2の目的までは、これまでお話しておりますので、時間の関係上割愛をさせていただきたいと思います。2ページの3.編さん方針から説明をさせていただきます。

- (1) これまでの市内外の諸研究成果や歴史資料を参考にし、各学問分野における最新成果を盛り込み市史を編さんする。
- (2) 記述内容が、歴史資料に基づく史実に立脚したものとし、高い学術的な水準を保つものとする。
- (3) 市史編さんに当たっては、市民のご協力を得ながら、市内外から幅広く歴史資料を収集するとともに、埋もれた貴重な歴史資料の掘り起こし等のために必要に応じて調査を実施する。
- (4) 収集した歴史資料は、体系的に整理し適正な保存保管を行い、将来にわたり市民や研究者が広く利活用できるようにする。
- (5) 写真や図版を多く使用し、分かりやすく、広く市民に親しまれる市史編さんをする。

次に3ページでございます。4の編さん期間及び刊行計画でございます。

- (1) 市史は、基本として、通史編を3巻、資料編。別編、合わせて14巻の全17巻で構成する。
- (2) 編さん期間が、今年度、令和2年度から令和14年度市制施行100周年の令和14年度までの13年間とする。
- (3) 刊行計画は別紙のとおりとする。ということで、別紙については、後程ご説明をさせていただきます。

5 刊行物の体裁、発行部数、

- (1) 判型、大きさはB5判とする。
- (2) 製本は上製本とする。
- (3) ページ数は各巻800ページから1000ページとする。
- (4) 部数につきましては、各巻1000部を作成する。

米印でございますが、この仕様につきましては、全体計画の基礎となりますが、分野や利用目的に応じて変更できるものとする。としております。

6 編さん組織

市史編さん事業を円滑かつ効率的に推進するため、次の組織を設置する。

(1) 延岡市史編さん事業懇話会。この懇話会でございます。

- ① 延岡市史編さん事業に関し、編さん基本計画の策定参加、支援に必要な事項について広く意見を聞くため設置するものでございます。
- ② 設置期間は基本計画が策定するまででございます。

4ページでございます。

(2) の延岡市史編集委員会でございます。

延岡市史編さん基本計画に基づきまして、編さんに必要な資料の調査研究及び市史の編集及び、執筆を行い、市史編さん事業を円滑に推進するため、市史編さんに関する学識を有する者で構成する延岡市史編集委員会を設置します。

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

(3)でございます。専門部会。

市史編さん事業を円滑に進めるため、延岡市史編集委員会に、次に掲げる時代及び分野別に学識経験を有する者で組織する専門部会を設置いたします。自然環境部会、考古部会、古代部会、中世部会、近世部会、近現代部会、民俗・神話伝承・建築技術工芸部会でございます。

(4) 延岡市史編さん事業推進本部

市史編さん事業は、長期間にわたる市を挙げての取組が必要であり、事業を効率的かつ効果的に推進していくため、これは市役所内に、市史編さんの事業推進本部を設置するものでございます。推進本部は副市長、教育長及び関係部課長職をもって組織し、本部長は山本副市長、副本部長は中間副市長及び教育長を持って充てております。

7 頒布方法でございます。

(1) 市史の販売を行う。価格設定はコストや他の自治体史の例を参考にしつつ、市民の購入しやすいものとする。

(2) 市内の小中学校、県内の主な公立図書館、博物館等の施設に寄贈する。5 ページでございます。

(3) 史資料提供機関、関係者等については基準を設けて寄贈いたします。

8 付帯事業でございます。

(1) 仮称「延岡市史だより」の発行や編集委員による講演会など、市史編さん事業の成果を広く市民に還元するとともに、本事業への理解が深まるよう市民への情報発信に努めて参ります。

(2) 市史編さん事業の成果を活用し、郷土の歴史について、子供たちにも理解できるようにするため、写真や図表を中心とした延岡市史概要の刊行について検討いたします。

(3) 収集した歴史史料の保存やその成果を後世に残す方法について、市民や研究者の活用の利便性も踏まえつつ、検討をすることとしております。

9 その他でございます。

市史編さん事業は長期に及ぶことから、刊行計画については、歴史資料収集や調査研究等の進捗状況や成果等を踏まえ、必要に応じ適宜見直すものと致します。

最後に 6 ページの刊行計画でございます。先程、申しあげました通り上から左端でございますが通史編の 1、2、3、それから資料編として、1 から 12、別編の 1、2 ということで 17 巻を予定しております。横に行きまして、本年度は基本計画を策定しますが、来年度から資料収集等に入って参ります。その後、資料の調査・研究をしまして、揃ったものから原稿の執筆等に入りまして、校正、印刷製本という流れになる、ということでございます。ですから、今の、先ほど申しあげましたが、令和 14 年までのスケジュールにおいては非常にタイトなスケジュールとなっております。1 年に 2 冊を出すというのがですね、複数年ありますが、例えば 80 年史、前回作っております延岡市史の 80 年史は、1 年半ですかね、かかっていると聞いております。ですから、1 年に 2 巻出すというのは非常に厳しいところもございまして、令和 14 年 100 周年という、後ろがありますので、こういうタイトなスケジュールになってますけどこういう計画をしているところでございます。説明は以上でございます。

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

議長	<p>はい。ありがとうございました。ただいまご説明がありました編さん基本計画案についてご意見、ご質問等ございましたら。どうぞ。</p>
委員	<p>延岡市PTA連絡協議会から参りました。よろしくお願ひいたします。</p> <p>この度はPTAを呼んでいただきましてありがとうございます。私たちPTAを呼んで下さった理由ってというのは、きっと子供たちに、この事業を届けたいっていうが一番の理由なんだと思います。先ほどから皆さんが「若い世代にぜひ」、と言うのを聞いてとても嬉しく思っています。ですが現状は、そこに置いてあるような難しそうな本は図書室にあっても、まずに手に取ることはないというのが現状です。延岡市の先生方は、子供たちに本読んで貰いたいということで、年間何冊借りなさい。というふうにして図書室から本を持っていくのを表にしたりしているんですね。その中でも人気があるのが漫画バージョンというのがとても人気で、日本の歴史だったり、世界の歴史、などなど漫画バージョンが上位を占めている状況です。なので、ぜひ、漫画バージョンを考えていただければなと思っ参りました。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。事務局何かお考えはありますか。</p>
事務局	<p>漫画バージョンといいますと最近出来た「まんが のべおかの歴史物語」というのが、史談会さんから出版されてると思います。古代から最近の話題まで、吉野彰さんのノーベル賞受賞のことまで含めてですね、1冊に非常にわかりやすくまとめられてると思います。</p> <p>今回作る市史といいますのは、やはり、記録等に基づいた、しっかりしたものを作っていくというのが目的でございますので、そういったものを元に、今回いろいろな市民の方のご協力いただきながら調査を通して新しいものも出てくると思いますが、それを基にしっかりと記録を残していく。それを基にですね、いろんな団体の皆様が、今回史談会の皆さんが、漫画を作ってくださいましたけども、そういった方の皆さんが利用していただいて、子供たちには読みやすい、そういったものを作っていただくというのがよろしいんじゃないかと、事務局としては思っているところでございます。以上でございます。</p>
議長	<p>自治体史をやっていると、いろいろところで漫画と言われる。実は漫画は難しくてですね。漫画なら読んでくれるわけではなく、面白い漫画なら読んでくれるんです。面白い漫画ってというのは、漫画家としての力量がもろに反映されちゃうんで。実際に漫画版日本の歴史って売れているのは限られてますよね。石ノ森章太郎くらいかな。復刻版ですけど。なので私もとても興味はありますけれども、本当にいいやつを作るのは大変だなと。でもこれも試みてもいいのではないかと。要するに、漫画にすれば読まれるのではなくて、読んでくれる漫画を作るという考え方でやらないとなかなか大変だろうなと思います。</p> <p>他になにか。</p>
委員	<p>資料の4ページの専門部会。どのくらいおられるんですか。専門家の先生方。これは執筆、編集、調査をする先生方のことでしょうか？</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

事務局	<p>専門部会は調査研究を目的としております。専門家の先生方は各部会ごとに5名ないしは7名を予定しております。</p>
委員	<p>了解しました。私は専門ではありませんけど、13年間という長期戦でやられますが、執筆の先生方、それから調査の先生方も大変ご苦勞があらうかと思ひます。そこでお願いがあるのですが、まず執筆される場所、それから、それに携わる市の職員の方は勿論だけど、囑託事務の方々の人数をしっかりと確保してほしいと思ひます。また、何といつても予算措置についても毎年やうていくんでしようけど、非常に大事な事で、十分な予算の措置をしていただひて執筆の先生方や調査の先生方が十分作業が出来るよな予算措置をしていただくと有難いなというふうに思ひております。以上です。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございます。どうぞ。</p>
事務局	<p>最初に、参加人員体制のお話があつたかと思ひます。体制の、職員体制のお話ということによかつたでしようか。</p>
委員	<p>はい。</p>
事務局	<p>今後進めていく上でですね、必要な場所ですとかそういう体制につきましては、順次整えていきたいと思ひます。それから、予算につきましては、今後、長い事業でございますし、いろんなどころに協力をしてもらわないとけません。そのために、実はこの市役所内部に設けました、その推進本部といひますのは、長期に渡る事業ということて、現在コロナ対策ということて、なかなかみんな財政等に憂慮しております。今後13年続けていく中で、非常に厳しい時もあるかと思ひますけれども、そういう時のために、予算担当課も含めてですね、今から活動するために、そういう組織を設けております。将来においても、市内においてはですね、市史編さん事業というのが本当に大事なんだということてはですね、わかっていたきながら、進めていきたい、必要な予算を確保していきたいと思ひております。ですから今回、市民の皆さん方、たくさんの公募の委員の皆様、参加していただひておりますけども、こういう声をですね、財政状況等が厳しくなつた時には、お力をいただければというふうに思ひております。以上でございます。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございます。大変、大事なご意見をいただきました。スタッフの人数、場所、予算。私からも是非、強くお願いしたいと思ひております。 他に。はい、どうぞ。</p>
委員	<p>話はちよつと反れるんですけど、〇〇さんがお話しただひた、子供の見る漫画なんですけど、学校の先生とか教育現場の方がいらつしゃつたら、また話が反れるんですけど、学校に司書の先生とか専門の先生がいないことがあつて、普通の先生が普段の業務と一緒に図書館を運営されてたりして、子供たちに本を薦めたりする機会が、僕が子供の時と比べて、</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>「この本がいいよ」とか言ってくれる人がいなくなって、今回を機にこの現状が良くなってほしいなと思っています。</p> <p>また話を戻しますが、資料の中の5 刊行物の体裁、発行部数のところに一つ疑問がありまして、デジタルの刊行物が作られるのか、ということと、(3)の専門部会のところで、民俗神話伝承建築美術工芸部会というふうにあるんですけども、延岡というか宮崎自体とか、調べるにあたってものすごく神話について膨大な資料が出て来る、または伝承とか出て来ると思うので、建築美術のアート系なものとは分けて別にしないのかなと思って。民俗神話伝承部会という形にして、その後に建築と工芸の部会という風に2つに分けないのかな、一緒にまとめて大丈夫なのかなと思って、ちょっと疑問に思ったので聞いてみました。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。その点いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>まずデジタル化というところでございます。5 番のところで、B5判、上製本、1000 部と書いてありますけれども、基本的には、こういったことで予定しております、デジタルにつきましては検討させていただくと、またその検討といいますのが、先ほど私の方で長期的なことで申し上げましたが、財政的な面で言いますと、他の自治体さんも本を作成して販売しております。13 年に渡って事業を展開して数億円という規模になるかと思っておりますけれども、その中でどうしても市財政当局からは、少しでも回収するよという意見を、どこの自治体さんも受けているようでございます。デジタルにして、見たらすぐ検索出来るようにとすると、すごくいいんでしょうけども、その時に何が、仕組みではあるんでしょうけど、今のところ存じ上げておりませんが、こういったことも含めてですね、まずは、かかった費用もある程度回収するという考えで、どこの自治体さんもやっておりますが、うちの方も税金を投入しておりますので、本については作成すると思します。デジタルについては、どのような方法ができるのか、それについては、今後検討させていただけたらと思います。以上でございます。</p> <p>それから、専門部会のところでございますが、これにつきましては、意見として承りさせていただきますまして、また検討したいと思います。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございます。「かかったお金は少しでも回収しろ」と、私も他所で常日頃圧力を感じているところなんですけれども、自治体史の本編を売って回収するというのは、なかなかできて。それなりに意味がある上がりを出そうとおもったら、やっぱり売ることを当初から念頭においた編集されたものを考えないと、なかなか厳しいかなと。むしろデジタルはそれを通して延岡の歴史・文化に関心を持ってくださる、その方がさらにもっと詳しく読んでみたいと思ってくださる、そういう回路を念頭にデジタルの設定をされるというのがよろしいような気がします。</p> <p>手が何人か拳がってらっしゃいます。どうぞ。</p>
委員	<p>幾つかありますが、まずはそのデジタルの件なんですけど、私、昔新聞記者をしていたんですけど、始めた当時は手書きで、しかも文字を写植の方が拾ってってというふうにやったんですけど、今、弊社の方でもいろいろ、本とかを作成してるんですけど、今はデータ化している</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>時代なんで、当然、市史を刊行物を作るにしても、データが残るわけですので、例えばそれを図書館で検索可能なものにするとかですね、それがあんまりコスト的にかからないと思いますし、Web公開する際も、概要版みたいなもので公開していくとか。例えば、宮崎日日新聞社がですね、この昔から発行している三州新聞あたりから、ブルーレイディスクにして販売してて、全部買えば3000万円ぐらいかかるんですかね、そういう販売方法があると思いますので、現代でも、延岡が一番遅いぐらいですので、そういう時代に合ってますね、最先端の取り組みを延岡が第1号として県内に先駆けて示す機会だと思います。</p> <p>それとその部会のことなんですけど、やっぱり建築美術工芸の方にも、例えば文化部会とかですね、私も渡辺修三顕彰会のメンバーなんですけど、そういうものを入れるとかですね。例えば近現代も近代と現代に分けるとかですね。そういうのをちょっと考慮していただきたいのと、ここに自然環境部会というのがあって、大変嬉しいんですが、刊行計画の中では、通史編に自然というのが入っているだけで、別に別編とか資料編があるわけではないんですよ。これ、日向市史の自然編なんですけど、こういう立派なものが日向市は作っております。延岡には九保大に薬草園がありますし、江戸時代末期には賀来飛霞(かくひか)が高千穂採薬記をまとめました。それに成迫平五郎先生という植物に詳しい先生とか、いろんな方がいますし、私が所属するNPO法人のひむか感動体験ワールドの理事長はですね、ダイバーなんですけど、近海の珍しい生き物をですね、かなり写真とかですね、映像で残してますので、そういうものまで入れた自然編を作ると、本当にどこにもない、延岡ならではの新しい市史ができるのかなと思いますので、ちょっとその辺も、刊行計画含めてですね、見直していただけるとありがたいなと思いました。よろしくお願いします。</p>
議長	<p>ありがとうございました。これについて、事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>デジタル等について、概要版ですとかブルーレイディスクなどのご意見をいただきましたので参考にさせていただきたいと思います。それから専門部会につきましても、ご意見を踏まえながら、また検討をさせていただきます。以上でございます。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>デジタル化についてですね、いろいろ検討していただくということで、よろしくお願ひしたいと思います。編さん方針の中の4番。将来にわたり市民や研究者が広く活用できるようにデジタル化というのは重要なことだと思います。あと写真や図版を使いわかりやすく広く市民に親しまれる市史っていう意味でも、デジタル化というのは非常に重要な課題だと思います。編集の仕方なんかですね、例えばウィキペディアなんか面白いんですよね。概説なんか頭があって、それからいろいろ各項目についても、いろいろわからない単語、言葉については全部、リンクが貼ってあって簡単に関連事項を検索できる。この利便性っていうのはものすごい利便性ですから、このデジタル技術を使ってですね、そういう編集に活かしていくことが重要ではないかと思います。またそのことを想定しておかないと、いろいろ後に</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>なってやろうかと思っても著作権の問題とか版権の問題が出てきて大変難しくなるし、インデックスの付け方もですね、初めからデータのリンクを貼ってあるとか、そういうことを考えて作っておかないと出来ないと思います。それから小学生とか中学生、高校生なんかは、わかりやすい、読みやすいという意味でもですね、例えばウィキペディアみたいに、冒頭の方に概説を書いてですね、その中から資料編をあとでリンクでパッと見れるようにして、それを例えば売ることがあると思いますけれども、適当な料金を付けても十分売れると思うんですね。以前は出版したときは30万円くらいでした。それがデジタルで出たときには10万円です。今はもう、全然ありませんよね、値段が。そういうふうに時代は変わってきておりますからですね、本を売って投資したお金に対して回収するという形で発想を変えてですね、デジタル版だったら、そういう資料編も入ってるとしますので恐らく、DVDも充分出来るんじゃないかと思うんですけど。こういうふうにやってですね。当初から想定をしてやっていただくとうれしいなというふうに思っています。</p> <p>あと一つ、何度も手挙げるのは申し訳ございませんので、5番の刊行物、(4)の編さん期間の刊行計画のところ、先ほど意見も出しましたが、神話とか、それとか建築とか入っている感じなんですけども。別編で民俗神話伝承建築が入っていますが、宮崎県史も見たら通史編に入っております。神話関係とかですね。これは、あえて別編という形でやる必要があるのか。この辺りの取り扱いについてどのようにお考えなのかということをお尋ねしたいと思います。以上です。</p> <p>議長            はい。事務局お考えをどうぞ。</p> <p>事務局            デジタル化については参考にさせていただきます。神話については伝承ということで編さんしていくことになるのかと思います。これから資料収集をしていくわけですが、史資料編は12巻しかございませんので、全体を通した中でどれだけのボリュームになるのかを検討しながら進めていく必要があるのかなと思っています。</p> <p>議長            はい。どうぞ。</p> <p>委員            デジタル化の問題なんですけども、おそらく資料としてはデジタルで残すしか方法がないと思うんですね。図書館にある昔の「夕刊デイリー」とか「夕刊ポケット」。要するにもう全部ボロボロになって、手で開くと飛んでいってしまうから。それから、谷家が所蔵している金春の能楽の衣装だと思うんですけど、これも、内藤記念館あたりに展示するというのは難しいと思います。おそらく写真か図表かそういうのにせざるを得ないし、そういうのをデジタルで資料の中で撮っていたら、すごいいいものが残るんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>それと、市長との話なんですけど、その神話っていうのは、独特だから歴史に入らないかというようなこと言われましたけど、市長としては別編で作りたいというような、分けて神話は神話、民話として作っていきなというふうにおっしゃったので、そういう形が本来なのかなと思います。</p> <p>それともう一つ心配なのは文学関係です。ここの中で一つも出てきてないんですよ。どこ</p>
--	--

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>で扱うのか。大切な牧水が通史編の巻末に載ったりすると、我々はちょっと「あっ」と思ったりするようなどこがありますので、その辺のところどう考えるか、事務局の方からちょっと、お願いします。</p>
事務局	<p>先ほどのデジタル化というのは資料をデジタル化して保存するということだと思いますけれども、そういった方法になるのかなと思います。それから、専門部会に文学を入れた方がよろしいかとおっしゃられたと思うんですが、文学というのは、先ほど申し上げましたように全体を、考古から近現代に至る本市の資料の中でどのくらいのボリュームになるのかというのも考えて検討していかなければならないのかなと思っております。以上でございます。</p>
委員	<p>5ページの付帯事業ですけども。(1)で、市民への皆さんの、いわゆる本当に大事なことですし、それ考えていただいてるんですけども。(2)ですね、郷土の歴史、歴史だけじゃなく延岡の文化ですね、これやはり、延岡の市民の方からしたら歴史と文化と一体だと思わんですよ。延岡はいろんな意味で、文化人もおりますんで、そういう方たちも取り込んでいただけたらいいかと思わすし、やはり、子供も含めて市民11万8000人の皆様がですね、やっぱりよく理解できるような形でいけたらいいなというふうに私は思います。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。事務局お願いします。</p>
事務局	<p>付帯事業の中の、郷土の歴史のところ、文化を入れて欲しいということでございますけれども、当然そういった伝統文化というのも大切でしょうし、そういったことも検討して参りたいと考えております。以上でございます。</p>
議長	<p>では、〇〇さん。</p>
委員	<p>市制施行100周年が、2033年でございますけれども、これの意義というかですね、それについて、皆さんにも意識しておいていただけないかなと思っております。もちろん昭和8年に市制が施行されて、100周年を迎えると、そういった大きな町の、延岡の町の大きな節目でございますけれども、またですね、近世城郭である延岡城が、慶長8年、1603年、築城されておりますので、それから数えてちょうど430年という節目の年でもございます。それと、延岡平野を水で潤している岩熊井堰等がですね、大改修を行ったのも、ちょうど昭和8年ということで、それから丁度100周年であると。100年を迎えるという非常に業界にとっても、近世の延岡においても、あるいは延岡城の誕生、そういった意味においても非常に意義深い2033年であるということですね、皆さん承知していただければ非常にありがたいかなというふうに思っております。</p> <p>それから計画案の2ページの編さん方針というものがございますが、これはこれで大変よろしいかと思わすけれども、でもこれを極端に言えばですね、延岡市だけに通じるような方針ではなくて、どこの自治体でも通じるような多分方針ではないかなと思います。では、延岡の独自性、独自色はどこに出てるのかなと思わすところ、あまり出てないんじゃない</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>かなというふうに思います。できましたらですね、方針の下か、あるいは、別の資料の中でもいいんですが、やっぱり指針とか視点もですね、やっぱり市史編さんを行う上での視点をですね、独自の視点を持ってもらいたいなと思っております。例えば、中世に置きましてはですね、今山八幡宮の祭礼を中心としたところの県北の要としての延岡市域。そういった位置付けとかですね。或いは藩政時代の延岡藩は首府でございましたので、そしてまた三浦氏以降はですね、日本最南端の譜代藩でもございましたので、そういったものの果たした役割とか歴史的意義というの、できれば説明してもらいたいなと。それから非常に大きな問題がありましたけれども、有馬氏の転封の大きな原因になりましたけれども、山陰の逃散百姓一揆がございますが、こういったものを中心としながら、城付地である延岡領、それから豊後、宮崎という飛び地まで含んだところの、百姓、農民の権力への抵抗の歴史等もやっぱり説明していただければなと思っております。それから現在は、南海トラフ等が心配されるところでございますが、古代から現代までのですね、延岡における災害時の説明にも繋がるものであって欲しいなと思います。</p> <p>それから先ほど申しましたけれども、歴史というのは為政者中心になりがちですけれども、やっぱり庶民の歴史、文化、暮らし等も大いに光とか視点を当てながら、やはり最終的な土の匂いのする、そういう市史であって欲しいなというふうに思っております。</p> <p>それとちょっと先ほど財源的な問題がございましたけれども、パブリックコメントにも出ておりましたけれども、やっぱりふるさと納税制度の活用も視野に入れて考えて、そういうものを設置していくべきかなと思います。さすればやはり東京や大阪にお住まいで延岡出身の方で、こういう市史編さんを、100周年事業としてやるのかと知った場合ですね、それだったら、俺の幾らか寄付しようというようなことで、出てくる可能性も十分考えられますので、ふるさと納税制度等の設置活用も、必要かなというふうに思っております。</p> <p>何回も発言して申し訳ないですから、ここでまとめて言いますと、例えばこの前デイリーでも大きく取り上げられましたけど、小嶋政一郎さんですね、延岡の方言の「延岡のことば」ということで、昭和44年に、これだけ膨大な資料を1冊に充てはめております。やはり、延岡の方言は延岡を延岡たらしめてる、独自のものがございます。これは東京にもありません。宮崎にもありません。延岡しかないもの。この方言をですね、今や消えてなくなってるのもいくつかあることも事実でございます。実際、私もこの前、夕刊デイリー新聞で、伊能先生が発見された御家中弁ですね、延岡の武家ことば、これが、録音が残っていたということを知りまして、びっくりしたんですね。私は、もう絶滅になったんだろうと思っておりましたけど、そういったことで、方言というの、こういう活字だけであったり、イントネーションやらアクセントやいろいろ伝わりませんので、これはCD化したりあるいは動画化したり、そういったことをする必要があるのでなと思っております。そういったことをぜひ、何とかしていただければと思っておりますので、事務局の方向かありましたよろしくお願いします。</p>
議長	はい。
事務局	資料2ページの編さん方針の中に、延岡市の独自色を入れたらどうかということで、非常に細かい点、今山八幡宮ですとかそういったことをいただきましたけれども、この編さん

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>方針といいますのは、考古から近現代までの各時代をまとめて編さんしていく中での、一つの方針ということとしてしておりますので、いただいた意見は意見として、いただいております。</p> <p>それから、ふるさと納税の活用ということですが、ふるさと納税の活用ということになりますと市全体で検討していくことになりますので、それにつきましては、もちろん回答できませんけれども、一つの案をいただいたというところで、これが出来る出来ないというのは、私が答えられる立場ではございませんので、ご了解願いたいと思います。</p> <p>方言ということにつきましては、一つの意見として承りたいと思います。以上でございます。</p>
議長	はい。
委員	<p>すいません。何度も。ちょっと気になる点があったので。2 ページ目ですね、2 の目的のところと、3 の編さん方針のところを書いてある、まず目的の(2)のところ、「延岡市域を基本としながらも周辺地域の歴史関係も踏まえ、我が国における延岡市の歴史的文化的な位置を明確にする。」というところと、3 の編さん方針の(3)の「市史編さんにあたっては市民の協力を得ながら、市内外から幅広く歴史資料を収集するとともに、埋もれた貴重な歴史資料の掘り起こしのために、必要に応じて調査を実施する」とこなんですけれども、これを学識者の先生方にちょっとお聞きしたいところがあって。延岡の歴史の中で、結構埋もれてる歴史ってのが多々あって、例えば三菱、ちょっと、なんと言えいいかわかんないんですけど、三菱、車ですね、確か銅山があったような気がするんですよ。三菱槇峰鉱山ですかね。そちらの方に三菱さんが実際、鉱山として使っていた経緯があるので、その際の歴史資料を集めるにあたって、実際三菱さんとやりとりをして歴史資料を集めたりするのかっていうところ、あと、戦国時代とかになってくるんですけども、島津、大友、あと、延岡で言うと土持とかが関わってきた時の城郭と、あと、大友宗麟が、まだこれ、歴史的にちゃんと解明されてるかわかんないんですけど、延岡の方に来て2ヶ月ぐらいで、島津に攻め込まれて撤退していったとか、仏舎のところを命令したとか、そういうところの歴史の解明じゃないですけど立証とかも、先生たちされるのかなっていうのと、あと日之影に残っている、これもあくまで噂程度のものなんですけれども、織田信長の末裔がこちらのほうに来てて、その墓が残っている。それが日之影の方にあるっていうのが、ちょっとすごい埋もれたというか、ディープなところの歴史になると思うんですけども。そういうのも何か資料等が例えば他県の方にある、例えば大友氏だったら大分の方にあたりとか。例えば、もし三北の方を調べるにあたって、熊本とかにも確か、相良とか、甲斐宗運とか、僧侶の方が周ってたりした経歴のあった気がするの、そういうところも、先生たちどういふふう資料をまとめられるのかなというのが気になったのでちょっと質問させていただきました。</p>
議長	どなたか、お答えをお願いします。
委員	私、中世の専門なんですけれども、戦国時代等の材料なんですけど、これはご指摘のような素材があれば、他県の調査は必須になります。私、中世で、宮崎じゃないんですけど、茨

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>城県の自治体史の編さん携わっておりまして、茨城県の地元にも行って、中世史料があるんですが、佐竹という大名が秋田に転封されて、その関係、写しの文書が秋田にあったやつも、我々、秋田通いをしておりまして、大体中世の調査はほとんど他県の調査で、史料調査の旅費の大半は中世部会が使ってた、という記憶あるぐらいで。ですから今ご指摘のあったところを大友宗麟とか、当然他県との関係になりますから、そういう調査計画を立てて調査をするということになります。</p> <p>あと城郭につきましては、これはもう、考古の先生方とご相談の上だと思います。今、自治体史で城郭を載せるのが基本になっておりますので、基本的に城郭に関する情報を、現状の図面等とか、現状わかるんですね。あと文献からわかることも、書ける範囲で繋ぎ合わせていくということは、必要だというふうに思います。同じように三菱も、それは私の仕事じゃないんですが、なるんじゃないかなというふうに思います。以上です。</p>
議長	<p>企業資料というのは結構難しいところもあるんですけども、財閥系の大きなところは、三井は三井文庫がありますし、三菱は三菱総研かな、一定の公開はされておりますね。旭化成が出してくれるかは知りませんが、それはやっぱりアプローチしていく、トライしていかないといけないことですね。</p>
委員	<p>追加で。</p>
議長	<p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>〇〇さんのおっしゃった槇峰鉱山。三菱ですけど、今言ったところに坑道の入り口の所に三菱のマークが付いてますね。行かれたかもしれませんが。実際今でも三菱の関連会社の方、地元自身の方が管理されていますね。で、坑道の図面とかも残っています。写真も残ってますね。実はですね県総合博物館が過去に調査してまして報告書が出てますので、もし興味があるならそちらをご覧ください。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p>
議長	<p>ありがとうございました。はい、どうぞ。</p>
委員	<p>私、専門じゃないんで、素人なんで、基本的な考え方だけを質問させていただきます。2 目的、それから、3 編さん方針に、ここ書かれてますが、例えば、編さん方針の(3)「市民の協力を得ながら」ということは、具体的にどのようなイメージを考えていらっしゃるのかということと、(5)「広く市民に親しまれる市史」を方針として挙げられてますが、これ具体的には方策としてどのように、広く市民に親しまれる市史をお考えなのかということと、あと、6 の編さん組織のところ、(2)の市史編集委員会。これが実働部隊だと思うんですけど、この実働部隊の、委員の選出方法、選出基準、この辺りの考え方、もっと言えば、この懇話会のメンバーと編集委員会のメンバーがダブることがあるのかないのか、ということですね。それ</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

議長	<p>から、まずは以上です。お願いします。</p>
事務局	<p>はい。</p> <p>2ページの編さん方針の(3)の中の「市民の協力を得ながら」という部分がまず大事じゃないかと思います。これにつきましては、今後、来年度から資料収集に入っていくというふうにご説明を申し上げましたが、そういった点でですね、市民の皆様にご協力をいただける部分があるんじゃないかな、というふうに思っているところでございます。</p> <p>それから、5番目の「わかりやすく市民に親しまれる」につきましては、写真や図版等を多く使用して、わかりやすく、親しまれるというところで、しておるところでございます。</p> <p>市史編集委員会の委員の皆様が懇話会委員とダブることがあるのかと、いうふうなご質問でございましたが、ここについてはまだ正式に決まっておりません。ただ、事務局といたしましては、この懇話会に出席していただいております学識経験者の皆様には、編集委員になっていただけないかなというふうに思っているところでございますが、これからお願いをすることございまして、「延岡市の市史編さんは、ややこしいから、もういいわ」と言われたら困るな、というふうに思っているところが本音でございます。以上でございます。</p>
委員	<p>編集委員が実際に調査やって編集するんですが、それに対する懇話会からのチェック機能はどのように働くのか、ノーチェックなのか、働くような機能を考えているのか、という点はいかがででしょうか。</p>
議長	<p>はい。お願いします。</p>
事務局	<p>この市史編さん事業について、冒頭から説明させていただいておりますけれども、基本計画を作りまして、この基本計画というのが、おおもとに、来年度以降、資料収集して、その資料等をもとに、編集委員会の先生方に校正・執筆をしていただくという流れになってると思います。ですから、基本的な計画というのは、今年度作成しますので、その中で皆様のご意見をいただくということになります。そして、資料の収集につきましては、市民の皆様にもご協力いただきますし、いろんなところで、収集をしていかないといけないと思います。</p> <p>それから、最終的な刊行のところで見ていただきますと、数年資料収集がですね、続いていくことになると思います。その上で、〇〇委員がおっしゃるところのチェックというところの流れがわからないのですが、方針としましては、基本計画を作って、そして資料収集で、いろんなところに収集に行っていただきます。延岡は内藤藩が持っていましたので、内藤藩の飛び地もあちこちにありますが、延岡以外のところの資料の収集も必要になってくるかと思えます。いろいろなところから資料を収集して、資料をもとに市史を編さんをするというところで、それを、先ほど〇〇委員からございましたが、市制施行100周年に間に合わせるように作成していかないといけないというのが、我々事務局としての命題だと思っております。その中で、昨年1年間いろんなところを研究しましてですね、非常にタイトだと申し上げましたが、あまり時間がありません。この時間がない中、どうすれば最短でいろんなことができるの</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>かというのを検討しながら、皆さんに、ご意見等を賜りながら進めているところでございます。これから悩み続けるのかなと思いますが、ぜひとも、この市史編さんのですね、成功に向けて、ご協力いただけたらと思っております。以上でございます。</p>
委員	<p>ありがとうございます。もう一つ。これを作った後、延岡市史をどのように評価するのか。一部利活用という言葉、文言がありますけれど、利用活用がどの程度されているのか。例えば、数億円の事業投資をやって、やられた結果である延岡市史が、図書館の隅に置かれて誰も利用しないとかね。それは全然活用されていることにならないわけであって、この辺りのコストパフォーマンス、非常に難しいと思いますけれど、数億円なら数億円投資した結果、どのようなフィードバックっていうのがあったのか。そういうような評価基準。基本的に、私、民間のメーカー出身なんで、何でも事業をやる上では、そうしたものに対してどれだけフィードバックあるのか、必ずコストパフォーマンス考えるんですが、一般的に自治体行政はやる事業というのは、やりっ放し。大変失礼な言い方ですけど、やりっ放して評価をしない。やはり作る上で事業を始める上で、何らかの評価基準、できれば数値目標がいいと思うんですけど、これを設定して、それが達成できたかどうか。当然、その目標を設定する上では、この基本計画の中に盛り込む。それは、目的、編さん方針、ここに盛り込んで、これが達成されたのかどうかをやった結果、作った結果、それに評価されるべきだと。</p>
	<p>普通、民間出身の人は、事業を数億円投資してやる上は、必ずこういうことをやります。自治体でも延岡市でもこういうような事業投資に対する結果を評価できるようなことを考えるべきだと思います。例えば、例ですけど、作った後、ここの委員も含めたモニターをやって、アンケート結果で意見を求めるとか、なかなか非常に親しみやすい読みやすい市史ができたねとか、そういったアンケートで、結果数値化するとか。例えばですよ。だからこのあたりの、事業に対する評価を市史編さんを、まず考えるのか考えないのか。いいんだと、そんなことは考える必要はないんだよ。対処しない。というふうに、それは、それで一つの考えでしょう。こういう市史ですから。そのあたりも議論できたらな、というふうに思いますけど。</p>
議長	<p>はい。どうぞ。</p>
事務局	<p>資料の、評価基準をお尋ねだと思いますが、この事業を行いまして、評価していただけるのが、市民の皆さん方でもあるんですけど。将来の延岡市民。或いは、延岡市の位置付けをはっきりさせると言いましたけども、全国の中の、延岡市の位置付けというのが、どのようになっていくのか。そういったものが、将来の市民の方々、そういった方々に評価していただけないかなと思っております。なかなか、いわゆる民間の中では当然必要だと。ただ、では民間の方が市史編さんやるかって言ったら、やらないと思います。どこの自治体でも黒字になってる自治体はないと思います。その上で、やろうと決めました。延岡市はですね。それは市民の皆様方の、「願う会」というような熱い思いがありまして、それを受けて、100周年を迎えるまでにやっていこうと思っているんですね。ですから、これについて、民間のお考えでいくと、どれだけのコストパフォーマンスがあるのか、KPI だとかいろんな評価基準を設けてくべきだという意見も、考え方としてはあるのかなと思いますけれども、それを考えておりました。</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>たら、やれないと思います。ただ、延岡市は、これをやることを決定しております。その点については、ご評価をいただきたいと思っております。以上でございます。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。どうぞ。</p>
委員	<p>組織のことでちょっと質問させていただきたいんですけども、先ほど、各専門部会の人数が5名～7名ということで、編集委員会の中に専門委員会を設置という組織図なんですけれども、編集委員会が全て専門委員会に分かれていくのでしょうか。それと編集委員会の一部に専門委員会が設置されるのでしょうか。もし、一部という事でしたら編集委員会の人数と言うのは、どのくらいの規模になるのでしょうか。</p>
議長	<p>はい、どうぞ。</p>
事務局	<p>事務局が説明させていただきます。今日お手元にお配りしてる編さん事業概要等についての、4ページに組織概要図を載せておりますが、基本的に事務局の考えといたしましては、各専門部会に分かれますけども、この部会の部会長または副部会長まで含めた形が編集委員会議というのを開いて、大きな方向性を決めていきたいと思っておりますが、この専門部会をすべて包括した形が編集委員会という形になります。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>ということは、編集委員会が50名程度の規模ということでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。ただし編集委員会の会議をまとめていくのは、10名程度の会議になると思います。</p>
委員	<p>他市の事例を見ますと、これが一つの市民参加にもなろうかと思いますが、調査協力員制度というのを設けてるようにありますけれども、今回の場合はそれをOKの考えがあるのかですね。</p>
議長	<p>はい。お答えをお願いします。</p>
事務局	<p>当然作業部会は調査入りしましたら、調査をやっていただく方々必要になってくると思いますので、調査が始まった段階で考えていこうと思っています。</p>
議長	<p>実際にはですね、専門部会のメンバーだけで調査できないんです。ですから、何らかの形で、名前はいろいろあると思いますが、そういう方達、組織っていうのが必要なんだろうなと私は思います。というか、そこがどのくらい関わるかで編さん事業の進め方が随分違ってくるんじゃないのかというふうに思います。そこは是非よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>いろいろご意見を伺いましたけれども、ちょっと時間が、甚だ具体的なことで申し訳ないんですが、帰りの時間に差し支えるところまで来てしまいましたので、今日は第1回です</p>

第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>けれども、随分内容に踏み込んだご意見をたくさんいただいたんじゃないかと思います。予定ではあと3回開催されますので、そちらでさらに議論を深めていきたいということで、本日はそろそろおしまいにしたいと思うんですが、よろしゅうございますか。</p> <p>はい。どうぞ。伺うだけになります。</p>
委員	<p>ちょっと個人的な意見ですが、まず延岡市史という形を本でパツと作りだして、終わらせていいのかなってのはちょっと思っています。システムづくりも大事なんじゃないかなと思っ</p>
	<p>ているんですね。</p> <p>例えば僕、建築関係の仕事なんですけど、今は美術館を箱物で作るっていうのは、もう、やらなくなっちゃって。むしろ、例えば町全体を美術館化するっていうシステムづくりの方から。延岡はもう、駅まち活性化計画、あれ本来は、箱物を作るんじゃなくて市民力を生かすシステムづくりだと思うんですけど。そういうシステムづくりを延岡市史でも、システムづくりでは、これは市史ですっていう形もありなんじゃないかなと思ってたんですね。</p> <p>あと、皆さんの話を聞いて、ちょっと思い付きなんですけども、出版会っていうシステムはどうかと思ったんですね。出版会っていうシステムのいいところはですね、いろんな垣根が下がることです。その出版会、例えば「延岡市史出版会」っていう、仮称だとして、主力事業はもちろん延岡市史なんですけども。一方で例えば有志が書いたものを審査して、これはいいものと思ったら出版するとか、これは売れそうと思ったら出版するとか、例えばですけど。例えば野口記念館が企画したものを出版しようということ、こっちでやるとか、そういうシステムづくりがあれば、それが売りに繋がったりとか、そういう何かいろんな、垣根が下がるので。名称は別なんですけど、垣根が下がるような気がします。</p> <p>あとは、結局僕ら市民が、ちょっと不満に思っているのは、みんなおっしゃってる通り市民参加がしにくい。それはしょうがないんです。専門に入っちゃうとどうしても垣根は出来てしまうんですけども、インターネット見てて思うんですけど、玉石混交の中で、稀に玉が出ると。玉が認可されれば出版してもいいと。なので延岡市史にも出来るんじゃないかと。そういう審査のシステムを出版会という形にできれば。九州大学にも出版会はありますよね。</p>
議長	<p>はい。あります。</p>
委員	<p>そういうシステムをちょっと何かちょっとわからないんで参考にできたらな、みたいな気持ちがあって、そういうシステムづくりがあれば、例えば、一市民が全然研究者じゃないんだけど、すごい良い論文書いて、これはいいと思って。あとはもう絶版になっちゃって売られてないんだけど、すごい良い研究があって、これを再版しようっていうのを出版会でやると。そういうのも、市史編さん事業の目的としては後世に継承するとかですね、歴史資料を明確にするとか。そういうのが適うんじゃないかなと思った次第です。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございました。面白いご意見だったと思うんですけど、その自由度を保とうと思ったらちょっと行政がやらないほうがいいんじゃないかと思うんですね。だからそのシステムが出来て、それと連携するという形を構想していくっていうのは非常に興味がある</p>

## 第1回 延岡市史編さん事業懇話会議事録

	<p>点だったかなと思いました。すいません、ということで、またこの次の話をさせていただいたらいいですけれども、今日のところは、ちょっとご意見拝聴するだけになってしまった面も、くはないんですけど。これだけ多くの方がご発言いただいて、大変ありがたいことだと思います。次回もぜひよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>申し訳ありません。途中で切るようですが、本日は、これで終了させていただきたいと思ひます。事務局から何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。第2回懇話会の開催日についてでございますが、11月6日金曜日の午後に開催予定です。後日案内をお送りしますので、ご予約をいただければと思ひます。</p>
議長	<p>はい。それでは事務局へお返しいたします。</p>
司会	<p>それでは、以上を持ちまして第1回懇話会を終了いたします。</p> <p>本日は、長時間にわたりお疲れさまでした。</p>